

米川ビワマスプロジェクト

目撃情報
大募集



「ここでな、わしは子どもの時、窓からビワマスをつかんだんや」
大正から昭和へと時代が移り変わる1920年代。多様で豊かな自然とそれに寄り添う美しい暮らしがありました。当時のような豊かで美しい米川で、子どもたちが生き活きと遊ぶ風景をつくりたい、そんな思いをこめて「米川ビワマスプロジェクト」に取り組んでいます。



米川 かわまち づくり

～もう一つの曳山 まちなかに残る“キセキ”の川 Yonegawa～

春

ビワマスの稚魚が、米川をくだってびわ湖へとむかいます！
より多くのビワマスが見られるように、稚魚の放流にもチャレンジしています。



▲米川で確認されたビワマスの稚魚

夏

米川に還ってきたビワマスが卵を産みやすいように、「川耕し・産卵床づくり」を行います！
水生生物調査や米川まつりなど、川の中に入ってジャブジャブ歩きまわる「川耕し」や川底をクワで耕す「産卵床づくり」で川底をフカフカにします♪



▲水生生物調査

▲産卵床づくり (with 虎高新聞部)

秋

米川にビワマスが遡上してきます！
より多くの方からのビワマス目撃情報を募集しています。



▲米川に遡上してきたビワマス



▲ビワマスの産卵 (永源寺・法川)

冬

ビワマスの稚魚を調査しています。
米川では、年を越して生息する「越年アユ」が見られることも！



▲冬の稚魚調査



▲米川で確認された越年アユ

あなたも、米川フレンドになりませんか？
申込先はこちら



米川ビワマスプロジェクトのホームページはこちら



この事業は、平和堂財団環境保全活動助成事業の助成を受けて実施しています

HPIはこちら



1 地域・暮らしにとっての米川

1. 米川がもたらすうるおいやすらぎ

秀吉以来、まちなかを流れる米川は、舟運の水路、野菜などの洗い場、こどもの遊び場でした。今も、両岸は石積みで、水路に降りる石段やカワドが随所に残ります。湧水に恵まれ、水質の良い清流が流れます。川近くには、神社や地藏堂、曳山の蔵などが点在し、暮らしと深く結びついています。四季折々には、花木が様々な景色を見せます。また、魚や虫、鳥たちもやってきます。



▲生き生き川掃除



▲河川一斉清掃

2. 米川の自然再生への取組

1970年代、米川の清掃活動の中心であった故・片野喜代士さんは、当時、次のとおり述べられています。「ここでな、わしは子どもの時、窓からビワマスをつかんだんや」「米川のこっち側も向う側も自分の家や。自分の家の中を川が流れていて、その川が汚れるのは納得できんやろう。川が汚れるのは家が汚れるようなもんなんや」。

今も、毎年5・6月に、沿川の連合区が、行政と協力し、河川清掃を一斉に、そして、米川支流環境づくり協議会や自治会も個々に実施されています。

また、米川の水環境を良くし、ホタルを取り戻そうと、「米川で蛍を愛でる会」が結成されて、四半世紀。毎年、ホタルの飼育(2009～2025年)から放流、観賞会などの取組を。最近では、随所で、ホタルの飛び交う姿を観賞できるようになりました。加えて、下水道等の整備により、水質も次第に改善し、最近では、多くのアユが米川をさかのぼり、2024年には、ビワマスの稚魚と遡上を確認しました。



▲ホタル(幼虫)の放流

制作・編集・発行

長浜まちなか地域づくり連合会

連絡先 ☎0749-64-2753

長浜市高田町12-34 長浜まちづくりセンター内 ✉ntd.rengoukai@gmail.com

II まずは、治水対策を大切に



▲米川の溢水



▲知事米川視察

川幅が狭く、曲折しているため、頻繁に大雨のつど氾らん。滋賀県に対応策を要望するも、人家が隣接し、川底が深いため、護岸のかさ上げや本格的な浚せつが困難。

しかし、滋賀県知事の現地視察を機に、2016年に、県・市・地元の三者による米川流域治水対策協議会が設置。現在、2027年度内の供用をめざし、ユニークな遊水地の整備事業が推進。

III 米川・かわまちづくりの展開

「ぶらり 長浜まちなか再発見!(路地裏歩き)」をきっかけに、2019年に米川の川歩きがスタート。「汚いから遊ぶなと言われてきたが、遊んでみたい」「東京から移住したけどまちなかを清流が流れているなんてキセキ」など、感嘆の声。大学生や高校生、市民のワークショップでは、みんなのやりたいことがてんこ盛り。

“やりたいこと”“できること”からやってみようと、「米川・かわまちづくり」がスタートし、早くも、丸6年。

めざしているところ

MRGs (Mother River Goals)

まちなかの顔・誇りとなる水辺空間づくり、やりたい人やできる人の“まぜこぜ”で、関心を寄せる人たちのネットワークで、5つのゴールと14のターゲットをめざし、新しい“長浜ならではの”まちづくりを推進。

▼米川まつり・米川喫茶



▲川面の灯(針屋橋から下流方面)

Goal1 川への関心を高めよう

～まちなかの新しい魅力の発信!～

- 川なかのゲームや遊び、灯ろう流しなど、大人も子どもと一緒に、“米川まつり”を楽しもう。
- 飛び交うホタルの光、川壁の淡い照明の灯りなど、まちの灯で米川の魅力を高めよう。
- 米川フォーラムなど、米川を地域資源としたまちづくりを考える機会・場をつくろう。



▲灯ろう流し

Goal2 米川を美しく、再生しよう ～米川を世界水遺産に!～

- 生息・生育環境を育むとともに、土砂の堆積や草の繁茂をなくしていくため、置き石を設け(バープ工)、川の流を変えて、米川を再生しよう。
- 川を耕し(サブザブ川歩きで、川底の藻が取れ、ピワマスやアユが好む環境に)、川底もきれいにしよう。
- 米川へのポイ捨てや生活排水のたれ流しをなくすなど、川を汚さない取組を進めよう。
- 米川の豊かな自然景観、歴史・文化的な景観を残そう。



▲世界水遺産(三島市・源兵衛川)



▲曳山博物館横での置き石



Goal3 米川の生き物や水環境をもっと知ろう

～米川をリバーミュージアムに!～

- 米川の環境づくりに取り組んだ多くの先人の教を大切にしながら、新たなアイデアを加え、次世代へと米川の良い環境を引き継いでいこう。
- 貴重な動植物などが生きていることや、米川の水質の現状を、観察会や動画などで学ぼう。
- 米川の生き物が生息・生育・繁殖できる場所を保全・再生・創出しよう。
- ホテル観賞会などを通して、ホテルの復活に協力しよう。



▲川の生き物って?



▲川の中 ジャブジャブ



▲川遊びに夢中

Goal4 米川で楽しく遊ぼう

～米川をプレイパークに!～

- ペットボトル製の川床(いかだ)に乗ったり、流れる灯ろうを追っかけたり、魚を捕まえ観察したり、子どもたちが、楽しく安全に遊べる場をつくろう。(曳山博物館、長浜幼稚園、どんどん橋付近)



▲ピワマスくす玉割合戦



▲川床遊び

▼高校生ワークショップ



※穀(こしき) 車輪の軸を受ける部分のこと。

Goal5 地域内外の新しいナカマと楽しもう

～米川が、人とひとをつなぐ“穀(こしき)”に!

- 大学生をはじめ、応募された米川フレンドなど、地域内外の“やりたい人”“できる人”の「まぜこぜ」で、ナカマの輪を広げよう。
- 米川の治水や自然再生について、地域住民はもとより、事業所や機関、行政などの協働化(仮称・米川を守り育てる会の設置)を進めよう。



▲川を耕す滋賀県立大学生



▲米川・ハマコン